

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第 60 号 / 2011 年 9 月 22 日発行

編集 / 医学研究科長

### 『新臨床研修制度の問題点』

内科学講座（血液・腫瘍内科部門）岡村孝教授

新臨床研修制度が発足して 7~8 年経過した。「新」という接頭語はもう要らないぐらい時が経過して、ある程度定着した感がある。医学部を卒業し、医師国家試験を合格した新卒医師はすべてこの制度に従い 2 年間の臨床研修をする。この制度の目的は、すべての医師は、ある程度の全科的対応ができることを基本として、いわゆるプライマリーケア能力を向上させるという国家的プロジェクトであった。鳴物入りではじまったこの制度の評価も少しずつ聞こえてくるが、医師の偏在・地域医療の崩壊および診療科の偏在などあまり良い話はない。私も、古き良き我々の時代と比較して、現在の研修制度により育った若い医師がどのように成長していくのか興味あるところである。この制度の主目的である臨床能力向上が達成できたかどうか？私は、大学病院にいるので、真の第一線病院でのプライマリーケア能力の評価はできないため、少し偏りがあることを承知で書かせてもらうが、この研修制度は、多科を数か月ごとに回るため、その科の真の診療を習得できないうちに終わり、次の科へ回り、すべて中途半端になってしまう。それに加えて、主治医ではないため患者医療に対して責任を持たなくてよいという甘えの精神構造を、医師になりたての若い重要な成長期に培ってしまうという大問題を抱えるようになったことを実感する。すなわち大学生 8 年生のようなシステムと思える。このような多科をぐるぐる回り、その科のエッセンスを習得し将来の臨床医としての基礎知識技術を学ぶという時間は医学部の 6 年間で済ませばよいのではなからうか。これには、国家試験をもっと基本的な簡単な問題にするなどして、6 年生への国試に追われる時間を減らすなどの改革を伴う必要があると思われる。

次の問題は、日本における基礎研究レベルの維持が可能かどうかである。若き医師は、まずその場にいる患者を助けるための知識・技術を中心に勉強しようとする。これは医療レベル全体を引き上げるために非常によいことであるが、これだけで満足してしまつて疾患の本質やその根底に存在する基礎病態を理解しようとする思考過程を失いがちになる。これは、医学界全体にとっても医学の進歩を阻害する要因になりかねない。現に各大学医局入局者は、旧帝大や人気診療科への偏りはあるものの全体的に減少し、基礎研究を追及する医師数が激減している。日本の医学水準の将来的低下を招く国家的大問題である。現在すでに、医学研究論文数は減少傾向にあり中国や韓国に追い抜かれたとの情報を聞いた。嘆かわしいかぎりである。大学院基礎医学を専攻できる体制を早急に構築するには、若いときに基礎医学研究を行うための制度改革や基礎研究者へのインセンティブおよび経済的支援体制などの大きな政治力が必要となるであろう。臨床現場から数年間離れて基礎医学先端の分野を理解し深めることで、新たな臨床の幅を広げることも医療の発展を長期的な視点で見ると必要であろう。

以上臨床研修制度の問題点を指摘したが、もちろん利点も多々あるであろう。とくに臨床医早期育成の面からは、この制度の骨格は後戻りできないだろう。いろんな方面からこの制度について、成果と欠陥を総括して、大局的立場で議論・改革が待たれるが、医療現場の疲弊を実感している者として、早急な対策を期待する。

最後に、医師は決して技術労働者としてのみではなく、臨床医であっても知的生産性をもった研究者として成長できることを望む。

**事務通信****◆修士・博士課程の皆様へ◆****研究題目及び学位論文提出予定の確認調査実施について**

修士課程第2学年、博士課程第4学年学生の皆様を対象に、研究題目及び学位論文提出予定の確認調査を実施しております。調査書類に必要事項を記入の上、10月11日（火）までに、必ず医学部事務部教務課まで御返送下さい。

併せて学位論文の申請・審査手続通知についてもご確認ください。

（学位論文のお問い合わせ先：医学部事務部庶務課担当：中村（加）内線3014）

**全国がんプロeラーニングクラウドシステムの公開について**

九州地区におけるがん医療の質の均てん化を目指した「九州がんプロフェッショナル養成プラン」の取組として、修士課程「がん看護専門看護師教育課程」専攻者および博士課程「先端癌治療学 悪性腫瘍専門医養成ユニット」専攻者を対象に、eラーニングシステム「プログラムジュークボックス」をご案内しておりましたが、今秋より、この既存のシステムに加えて、全国の複数がんプロ拠点が持つeラーニングコンテンツを共有化した「全国がんプロeラーニングクラウドシステム」が始動します。新システムでは、特に専門科目の充実が期待でき、また教員へのフィードバック機能や、他の学生の進捗と比較できる新機能が搭載されます。対象者には別途改めてお知らせ致します。

**【がんプロeラーニングクラウドシステムの主な特徴】**

- \*ASCO、ESMO、臨床腫瘍学会の腫瘍医養成プログラムに準拠
- \*東北、関東、関西、中四国、九州のがんプロ大学が参加（33大学予定）
- \*参加大学の授業を相互視聴できるマトリックス構造
- \*各学生の興味、専門に合わせて作り上げるジュークボックス構造
- \*自分の聴講履歴を他の学生の進捗と比較しながら随時確認可能
- \*教員へのフィードバックを各教員が随時確認可能

**平成23年度 大学院セミナーシリーズ特別講義 後期日程のお知らせ**

| 担当講座                  | 講義日時                     | 会場                | 講演者                                    | 講義テーマ               |
|-----------------------|--------------------------|-------------------|--|---------------------|
| 泌尿器科学                 | 9月29日（木）<br>16:00～17:30  | 教育1号館5階<br>1501教室 | 西松 寛明 先生<br>（東京大学医学部泌尿器科学教室・講師）        | 脂肪幹細胞による血管内皮機能改善の試み |
| 先端癌治療研究センター<br>（肝癌部門） | 10月7日（金）<br>18:00～19:30  | 教育1号館5階<br>1501教室 | 谷口 英樹 先生<br>（横浜市立大学大学院医学研究科臓器再生医学・教授）  | 肝臓におけるがん幹細胞に関する研究動向 |
| 病理学                   | 10月13日（木）<br>18:00～19:30 | 基礎1号館2階<br>会議室    | 中沼 安二 先生<br>（金沢大学医薬保健研究域医学系形態機能病理学・教授） | 肝内胆管の病理             |
| ☆小児科学                 | 10月14日（金）<br>15:00～16:30 | 教育1号館5階<br>1501教室 | 田中 雅嗣 先生<br>（東京都老人総合研究所・部長/プロジェクトチーム長） | 次世代シクエンサーによる全エクソ解析  |

☆小児科学の特別講義は「ゲノムドラフトの解明」履修者は必須講義です。

| 担当講座                | 講義日時                     | 会場                | 講演者  | 講義テーマ               |
|---------------------|--------------------------|-------------------|--|---------------------|
| 内科学（呼吸器・神経・膠原病内科部門） | 11月16日(水)<br>17:00～18:30 | 臨床研究棟2階カンファレンスルーム | 井上 博雅 先生<br>（鹿児島大学呼吸器内科学・教授）                           | 未定                  |
| 内科学（消化器内科部門）        | 11月24日(木)<br>18:00～19:30 | 臨床研究棟2階カンファレンスルーム | 松本 敏 先生<br>（ヤクルト本社中央研究所基礎研究1部・主任研究員）                   | 腸内細菌の生理的意義及び疾患との関連性 |
| 公衆衛生学               | 12月1日(木)<br>18:00～19:30  | 教育1号館5階1501教室     | 牧野 真理子 先生<br>（国際協力機構（JICA）国際協力人材部健康管理課メンタルヘルス部門・統括顧問医） | 発展途上国の医療事情          |

日時・場所等に変更がある場合には、大学院医学研究科ホームページでお知らせします。また、5回以上のセミナー出席およびレポート提出により単位認定を行っております。当該科目履修登録者は各セミナー出席の上、1週間以内に医学部事務部教務課までレポートをご提出下さい。

その他、多数のご参加をお待ちしております。

### ◆博士課程の皆様へ◆



## 平成23年度博士課程共通科目後期講義計画 及びレポート提出について



共通科目を履修された方には既に通知しておりますが、今一度講義計画及びレポートの提出期限についてご確認の上、所定の期日までにご提出ください。なお、講義の変更等ある場合には、大学院ホームページ学生掲示板にてお知らせしますので、そちらもご覧いただくようお願い致します。

### ●講義計画（後期日程）&レポート提出

| 実施時期 | 科目名                     | 科目担当責任者                 | 場所          | 講義日程/レポート  |
|------|-------------------------|-------------------------|-------------|--|
| 後期   | 臨床研究主任研究者養成ユニット         | 山田 亮教授<br>（先端癌治療研究センター） | 教育1号館1501教室 | 時間割：水曜6限 18:00～19:30<br>日程：9月14・28日、10月5・12・19・26日<br>11月9・16・30日、<br>12月7・14・21日講義実施。<br>レポート：第1回講義時に指示   |
| 後期   | 臨床・基礎研究と生命倫理（コンサルテーション） | 嘉村敏治教授<br>（産婦人科学）       | 教育1号館1501教室 | 時間割：木曜6限 18:00～19:30<br>日程：10月20・27日、11月17・24日講義実施。<br>レポート：<br>嘉村教授：11/30（水）締切 産婦人科教授室提出<br>芳野教授：12/28（水）担当者宛メールで提出<br>福重教授：12/27（火）緩和ケアセンター福重教授宛提出 |

| 実施時期 | 科目名               | 科目担当責任者                 | 場所              | 講義日程/レポート   |
|------|-------------------|-------------------------|-----------------|---|
| 後期   | 科学的根拠に基づく医療 (EBM) | 鳥村拓司教授<br>(先端癌治療研究センター) |                 | レポートのみ: 「EBMの功罪について」<br>2/3 (金) 締切 教務課窓口へ提出   |
| 秋期集中 | 研究者養成リテラシー        | 野口正人教授<br>(医化学)         | 教育1号館<br>1414教室 | 日程: 10月11・12・13・14・17・18日 15:00〜講義実施。<br>17・18日は15:00〜18:10 2コマ分ずつ実施。               |
| 後期   | プロテオーム/ペプチド解析     | 永田見生教授<br>(整形外科学)       | 教育1号館<br>1501教室 | 時間割: 火曜6限 18:00〜19:30<br>日程: 12月20日、1月10・17・24・31日講義実施。<br>レポート: 2/15 (水) 締切 責任者へ提出 |

## 平成24年度入学試験 要項決定!!

平成24年度大学院医学研究科入学試験の要項が、下記の通り決定しましたのでお知らせ致します。

### 【試験日程】

修士・博士ともに同一

#### \*前期試験

出願受付期間: 平成23年9月20日(火)〜平成23年9月30日(金)

試験期日: 平成23年10月18日(火)

合格発表: 平成23年11月11日(金) 午前10時

#### \*後期試験

出願受付期間: 平成24年1月16日(月)〜平成24年1月27日(金)

試験期日: 平成24年2月21日(火)

合格発表: 平成24年3月16日(金) 午前10時

※他に出願資格審査申請受付期間を設定しているのでご注意ください。

### 【試験内容】

#### \*修士課程

《基礎医学群・社会医学群・分子生命科学群・臨床看護学群》

英語・小論文・面接

《バイオ統計学群》

英語・面接

#### \*博士課程

英語・面接

出願資格審査、出願方法等詳細につきましては、平成24年度各課程募集要項もしくは本学大学院医学研究科ホームページにてご確認ください。

科目等履修生も同時募集中です。そちらも詳細は募集要項、ホームページをご覧ください。



## 編集後記

今月からいよいよ、平成24年度学生募集が本格的にスタートします。また今年7月末、修士課程臨床看護学群老年看護論「老人看護専門看護師教育課程」を、CNS専門教育課程として認可されるよう、日本看護系大学協議会へ申請致しました。認可が下れば、本学大学院は老人看護専門看護師養成拠点として、来年度また大きな一歩を踏み出すこととなります。これら本学大学院教育をより多くの方々に周知・ご理解いただき、多くの入学希望者に恵まれるよう、努めて参りたいと思います。(菅)

